

堺市人権協第 163 号

2026 年 3 月 6 日

堺市自治連合協議会
校 区 代 表 者 様

堺市人権教育推進協議会
会長 金 澤 正 巳
(公 印 省 略)

堺市人権協だより「こころの響き Vol.47」の回覧について（依頼）

堺市自治連合協議会校区代表者の皆様におかれましては、人権が尊重された安全・安心なまちの実現に向けた取組に多大な御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、堺市人権教育推進協議会において、「堺市人権協だより『こころの響き Vol.47』」を作成いたしましたので、回覧について御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 目的 当協議会及びその活動等を市民の皆様幅広く知っていただき、人権意識を高め、理解を深めていただく一助とする。
2. 内容 「堺市人権協だより『こころの響き Vol.47』」の回覧
3. 回覧時期 令和 8 年 3 月 区自治連合協議会定例会後

<お問い合わせ先>

〒590-0078 堺市堺区南瓦町 3 番 1 号

(堺市 市民人権局 ダイバーシティ推進部 人権推進課内)

堺市人権教育推進協議会事務局

担当：岸本・菅納

TEL：072-221-9280 FAX：072-228-8070

堺市人権協第 163 号

2026 年 月 日

堺市自治連合協議会
校 区 代 表 者 様

堺市人権教育推進協議会
会 長 金 澤 正 巳
(公 印 省 略)

堺市人権協だより「こころの響き Vol.47」の回覧について（依頼）

堺市自治連合協議会校区代表者の皆様におかれましては、人権が尊重された安全・安心なまちの実現に向けた取組に多大な御尽力を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、堺市人権教育推進協議会では、当協議会及びその活動等を市民の皆様幅広く知っていただき、人権意識を高め、深めていただく一助となるよう「堺市人権協だより『こころの響き Vol.47』」を作成いたしました。

つきましては、別添のとおり自治会内での回覧について御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

<お問い合わせ先>

〒590-0078 堺市堺区南瓦町 3 番 1 号

(堺市 市民人権局 ダイバーシティ推進部 人権推進課内)

堺市人権教育推進協議会事務局

担当：岸本・菅納

TEL：072-221-9280 FAX：072-228-8070

堺市人権協第 163 号

2026 年 月 日

各単位自治会長様

堺市人権教育推進協議会

会長 金 澤 正 巳

(公 印 省 略)

堺市人権協だより「こころの響き Vol.47」の回覧について（依頼）

平素は、堺市人権教育推進協議会の活動に御理解を賜り、厚く御礼申しあげます。

また、皆様におかれましては、人権が尊重された安全・安心なまちの実現に向けた取組に多大な御尽力をいただいておりますこと、深く感謝申しあげます。

さて、当協議会では、当協議会及びその活動等を市民の皆様幅広く知っていただき、人権意識を高め、深めていただく一助となるよう「堺市人権協だより『こころの響き Vol.47』」を作成いたしました。

つきましては、別添のとおり自治会内での回覧について御協力を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

<お問い合わせ先>

〒590-0078 堺市堺区南瓦町 3 番 1 号

(堺市 市民人権局 ダイバーシティ推進部 人権推進課内)

堺市人権教育推進協議会事務局

担当：岸本・菅納

TEL：072-221-9280 FAX：072-228-8070

堺市人権相談ダイヤル

(堺市人権推進課内)

※性的マイノリティなど性の多様性に関する相談を含む

【相談無料】

まずは
電話してください。



☎072-228-7364

堺市人権相談ダイヤル

【相談日時】

- ・月曜日から金曜日まで
(ただし、祝休日と年末年始を除く)
- ・9:00～12:00
- ・13:00～16:30
- ・おおむね1回30分



人権啓発DVD・ビデオ貸出

堺市人権推進課では、
人権啓発DVD・ビデオを
無料で貸出しています。

※DVDは日本語音声のみで外国語対応はありません。

貸出タイトルの一覧は

堺市人権啓発DVD・ビデオ貸出

【お問合わせ先】堺市人権推進課

TEL 072-228-7420
FAX 072-228-8070



約
30分

渋染一揆—明日に架ける虹

(アニメーション)

渋染一揆は、江戸時代の身分制の中で、服装などにまで加えられようとした差別政策に対して、人々が団結して立ち上がり、犠牲を払いながらも、人間としての誇りをかけた要求を貫いて成功させた物語。筋道を立てた要求と整然とした行動などから、不当な差別に生命をかけて立ち向かった人々の勇気や、人権を守ることの大切さについて考えます。



約
74分

語り継ぐ戦争の記憶

1945年7月10日の堺大空襲を体験された4名の証言をもとに制作された体験映像です。

1. 空襲の夜、そして電波戦
2. 校庭で見上げた空 黙された悲劇
3. 堺大空襲と焼け跡の町を生きた少女の記憶
4. 焼け野原を歩いた少女が見たもの

堺市 語り継ぐ戦争の記憶



上記2～4の映像はYouTubeで公開しています

セーフシティさかい



堺市 性暴力相談

堺市では、すべての市民にとって性犯罪・性暴力のない安心して暮らせる社会の実現をめざし、「セーフシティさかい」の取組を推進しています。「セーフシティさかい」の取組として、被害を受けた場合の相談・支援体制の充実や、被害者にも加害者にもならないための意識の啓発を行っています。今後も、性暴力等の根絶と被害者支援の取組を推進します。



私たちのまち堺から
人権文化の花を咲かせよう

堺市人権協だより vol.47



人権協だより
バックナンバー

こころの響き

わたしたちのまち堺から 人権文化の花を咲かせよう

多様性を尊重し、互いの違いを認め合うことで、より豊かな社会を築くことができます。

堺市人権教育推進協議会(略称:人権協)とは

人権協は部落差別をはじめ、一切の差別をなくし、すべての人の人権を守るため、1979年7月に発足した市民組織です。各種市民団体、企業、宗教法人等の多くの方々により構成され、すべての人の人権が尊重される平和で豊かな社会をつくるため、様々な人権啓発活動を推進しています。

● 人権協のシンボルマークは、人と人が手をとりあい、人権を守り、世界の平和を願う姿をあらわしています。



かなざわ まさみ
会長 金澤 正巳

役員

- 会長 金澤 正巳 (堺市自治連合協議会)
- 副会長 大町 むら子 (堺市女性団体協議会)
- 副会長 岩崎 紘美 (堺市PTA協議会)
- 副会長 黒木 佳子 (堺市こども会育成協議会)
- 副会長 柏原 秀和 (堺市立校園長会)
- 副会長 中田 理恵子 (部落解放同盟大阪府連合会堺支部)
- 副会長 森下 繁 (堺市人権教育推進協議会企業部会)
- 副会長 池西 隆昭 (堺市人権教育推進協議会宗教部会)
- 会計 小林 淳子 (堺市更生保護女性会)
- 会計 森内 啓子 (堺市人権擁護委員協議会堺市地区委員会)

加盟団体

人権協は27団体に加盟していただいています

- ・堺市更生保護女性会
- ・堺市在日外国人教育研究会
- ・堺市社会教育委員会議
- ・堺市私立幼稚園連合会
- ・堺市青少年指導員連絡協議会
- ・堺市農業協同組合
- ・特定非営利活動法人 さかい民間教育保育施設連盟
- ・堺商工会議所
- ・一般社団法人堺市老人クラブ連合会
- ・堺地区行政相談委員会
- ・社会福祉法人堺市社会福祉協議会
- ・自由同和会大阪府本部堺支部
- ・株式会社URコミュニティ西日本支社 泉北住まいセンター
- ・堺市こども会育成協議会
- ・堺市自治連合協議会
- ・堺市女性団体協議会
- ・特定非営利活動法人 堺障害者団体連合会
- ・堺市人権教育研究会
- ・堺市PTA協議会
- ・一般財団法人堺市母子寡婦福祉会
- ・堺市民生委員児童委員連合会
- ・堺市立校園長会
- ・堺市人権擁護委員協議会堺市地区委員会
- ・堺市保護司会連絡協議会
- ・一般社団法人大阪府専修学校 各種学校連合会
- ・大阪府立学校長協会 第8地区
- ・部落解放同盟大阪府連合会堺支部

堺市人権教育推進協議会

堺市堺区南瓦町3番1号 堺市人権推進課内
TEL 072-221-9280 FAX 072-228-8070

編集・発行(2026年2月発行)

人権協ホームページ <https://www.jinkenkyo.jp>



2025年度活動報告

全体研修会 (2025年8月22日堺市産業振興センター)

教育研究者、俳優、写真家であり、合同会社Art&Arts代表の山崎聡一郎さんに、「こども六法の時代」と題してご講演いただきました。ご講演を通して、未来を生きるこどもたちが、自分の権利を正しく理解し、他者を尊重する力を育むために、私たち大人がどのように向き合うべきか、必要な知識や意識を養いました。



人権を守る市民のつどい (2025年12月7日堺市総合福祉会館ホール)

第1部「わたしからの人権メッセージ」表彰式では、応募総数4,396点の中から選ばれた特選作品について、表彰しました。また、代表4名の方に作品の発表をしていただき、強く心を打たれました。

第2部では、「太陽の子」の映画上映会を行いました。歴史的事実に基づいた、日本の原爆開発を背景にした映画でした。人権を守る市民のつどいの開催にあたり、ご支援・ご協力賜りました関係者の皆様、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

また会場ではインターユース堺によるパネル展示も行われました(右の下の写真)。

インターユース堺では、多文化共生社会の実現をめざし、青年育成に取り組んでおります。

詳しくは右QRコードからご覧いただけます。

※上記以外にも人権協では様々な取組を行っております。

詳しくはホームページをご覧ください。(URLは表紙下部に記載しております。)



第46回「わたしからの人権メッセージ」特選作品の紹介

「墓はいらない」

中学校1年 井上 晴登 さん

私の曾祖父は、太平洋戦争で徴兵され、「インパール作戦」という最も過酷といわれた戦地へ送られました。食料も武器も届かない中、多くの方が命を落としましたが、曾祖父は奇跡的に生きて帰ってきました。

戦後、曾祖父は戦地でのことを多くは語らず、ただ「戦友たちの屍を道すがらに置いてきた。」と、静かに語っていたそうです。次々と倒れていく仲間を見捨てながらも、命令に従い、自らも死と隣り合わせの中で前へ進まなければならない。その極限状態は、私には想像もつかない、筆舌に尽くしがたいものだったと思います。

また、曾祖父は「自分の墓はいらない。戦友たちを置いてきた自分だけが墓に入ることはできない。」と、繰り返し語っていたそうです。そこには、生き残った者としての懺悔と、戦争によって尊厳を踏みにじられた仲間たちへの深い思いが込められていたのだと感じます。

高齢になった曾祖父は、体調のすぐれないある朝、寝巻をきちんと畳み、自らの足で病院へ向かいました。そして、その午前中に静かに息を引き取りました。最期まで誰の手も借りることなく、凛とした姿を貫いたその生き方に、私は深い尊敬の念を抱いています。

また、曾祖父は、五十年以上連れ添った曾祖母と一度も夫婦喧嘩をしたことがなかったそうです。自分に厳しく、人には優しく、家族は口をそろえて語ります。周囲への思いやりと自分を律するその生き方の中に、曾祖父は「人としての尊厳」を守り続けていたのかもしれない。

曾祖父の遺志は尊重され、葬儀は丁寧に行われましたが、お墓は建てられず、親の墓にも入らず、お寺に納骨されました。私は、そんな曾祖父の姿を通して、「平和とは何か」を考えるようになりました。平和とは、単に戦争がないことではありません。

現代においても、ウクライナや中東では、曾祖父と同じように徴兵され、望まぬまま紛争に参加させられる人々がいます。また、爆撃により家を失い、日常を過ごす街が、瓦礫と煙に包まれた戦場のような風景へと変わっていく。そんな恐ろしい光景が、インターネットやテレビのニュースを通して、私たちの元にも届いてきます。

自分らしく生きることが、大切な場所を守ることが奪われてしまう。そうした姿に、八十年前に曾祖父が体験した悲劇が、今もなお形を変えて繰り返されているのだと痛感します。

人の命は平等であり、誰もが尊厳をもって生きる権利があります。私は、それこそが平和の土台だと信じています。

曾祖父の遺志を受けとめ、私も人の命と尊厳を大切にしながら生きていきたい。それが、私にできる平和への一歩だと信じています。



応募数
4,396点の
作品のうち、
特選作品を
掲載してい
ます。

特選作品集
ホームページ
QRコード



<https://www.jinkenkyo.jp/past-message/>

世界人権宣言促進堺連絡会

堺市では、1945年7月10日に大空襲に見舞われ、多くの尊い命が失われました。堺市人権教育推進協議会世界人権宣言促進堺連絡会は、この日を忘れず、歳月を経ても決して戦争の悲惨さを風化させることなく、次の世代に平和の尊さを伝えていくことを目的に「平和と人権を考える市民のつどい」等の諸活動に取り組んでいます。



平和と人権を考える市民のつどい

(2025年7月5日堺市西文化会館ウェスティホール)



1945年7月10日の堺大空襲から80年。多くの命が奪われ、街が焼き尽くされたあの日を決して忘れず、二度と戦争の惨禍を繰り返さないという強い願いを込めて、今年も「平和と人権を考える市民のつどい」を開催しました。

今回は、戦禍を体験された方々の記憶と思いを未来へつなぐ「次世代の語り部」の方にご登壇いただきました。語り部の方からは、当時の体験者から直接聴き取った「空襲の恐怖」や「生き延びるために必死だった日々」など、胸に迫るお話が語られました。

会場には幅広い世代の方々が集まり、それぞれが平和への思いを胸に、そっと気持ちを寄せていました。戦後80年という年月の中で、実際に戦争を経験された方々は高齢となり、次の世代へ語り継ぐことがだんだんむずかしくなりつつあります。その現実を前に、語り部が体験者の思いを受け継ぎ、その声を未来へつなぐ意義は年々大きくなっています。

戦争体験者から語り部へ、そして参加者へ――。

この日のつどいは、記憶のバトンがたしかに受け渡されていく瞬間に満ちていました。参加された皆さんが、語り部の言葉を通して戦争の実相に触れ、平和の尊さ、人権を守ることの大切さを改めて心に刻む機会となりました。

戦争を知る世代が少なくなるなか、私たちができることは、語られた記憶を風化させず、次の世代、またその先へとつないでいくことです。

これからも、それぞれが平和について考え、語り、共有する取組を続けていきます。未来を担うこどもたちに、平和な社会を手渡すために。

